

議案外質問～

私は、民主党神戸市会議員団を代表して、市長、関係当局の皆さまに議案外の質問をいたします。

質問は、国の新成長戦略に関連した神戸市の都市戦略について、私と、川内議員より質問させていただきます。

先日、経済産業省から、「産業構造ビジョン2010」が発表されました。産業構造ビジョン2010は、昨年暮れに閣議決定された、日本の国の新成長戦略の方針に基づいて、半年間、各方面の専門家が、日本の産業の抱える課題と世界の動きを分析し、新しい日本の産業、企業を育て、成長させていくための処方箋と言えます。

処方箋の基本は、世界が直面するニーズに、日本の持つ技術や人材で取り組み、地域に貢献するとともに市場を拡大していくこと、また、日本の持つ豊かな風土や誇れる文化を発信し磨き上げることで、文化をベースに交流をもたらし、産業の成長へとつなげていくことなどで、世界をターゲットに官民一体となって成長していくことが盛り込まれています。

そうした背景の中、一方で、国の中での地方自治は地域主権へと向かってもあります。もう一度、神戸の持つ産業や企業、観光資産や文化資産など、こうした戦略と対比してみて、神戸市としての都市戦略を考えてみる必要があります。

そこで、関連して、4点質問いたします。

○「次世代エネルギー・社会システム実証実験」と「緑の分権改革」について

まず、ビジョンで示された戦略産業分野の5本の柱の中に、「電気や水、鉄道といったインフラ関連産業」と、「次世代エネルギーソリューション」が挙げられています。経済産業省では、すでに、エネルギーを中心に、通信や交通システムなども含めて、都市の中で先進的に実証に取り組む地域の公募を行い、応募された20地域の中から4つの地域を4月末に選定しました。神戸市も応募していますが、こちらは残念ながら選定に至っておりません。一方、総務省が「緑の分権改革推進事業（グリーンエネルギー資源量調査）」を行っており、神戸市は、国から委託を受けて今年度取り組むこととなっています。

経産省の実証実験において、たとえば、採用となった横浜市では、大都市横浜での日本版スマートグリッドの実証実験に取り組み、アジアなどの海外展開を視野に入れた展開を提案しています。ちなみに、スマートグリッドというのは、太陽光や風力発電など、電気が分散して作られていく際に、蓄電池などの技術、IT技術を使って、電力供給や送電そのものを制御していくための新しい方式です。

緑の分権改革推進事業では、グリーンエネルギー資源の調査と事業展開のための実証調査のみということですが、スマートグリッドに関連しても何らかの調査を行

うと聞いていますが、どのように推進していこうとされていますか、お伺いします。

また、世界の他都市と比べ、これからの調査では明らかに遅れてしまいます。新エネルギーやスマートグリッドなど、これからの成長分野を注視し、率先して取り組むことにより、市内に波及効果が得られるよう、何らかの実証実験への取り組みを検討すべきと考えますが、ご見解をお伺いします。

○神戸の水事業戦略について

次に、ビジョンの柱のひとつでもある、都市インフラとしての水事業について質問します。数年来、経済新聞などで、水事業を都市の水道事業者が企業と一緒に世界市場の市場拡大に向けて取り組んでいることが取りざたされています。会派からは、以前から、世界の貢献と市内企業の発展を兼ねて、神戸市も検討していくべきと提言してきました。これまで、消極的なご答弁しかいただいておりませんが、昨年暮れには、NEDO のベトナムホーチミン市での水道事業改善調査に、大阪市水道局と関経連が一体化して応募、採用に至っている、また、横浜市、川崎市なども海外に目を向けた取り組みが行われております。神戸市には、都市インフラとしての上水道・下水道の取水・給配水・浄化・下水処理等、基本技術、整備管理技術に加え、バイオガスなどの先進的な取り組みを企業と連携して作り上げてきた

土壌もあります。検討できないでしょうか？

◎観光・文化に関連して

○「光の都」神戸のプロデュースについて

ビジョンの中には、ファッション、コンテンツ、食、観光といった、文化産業立国も
うたわれています。こうした分野は、神戸市が潜在価値として持ち合わせている
ものであり、これまでもに取り組み、発展させてきた分野でもあります。

たくさんのアイテムの中でも、観光に目を向けますと、滞在型の観光の発展を
目指しながら、宿泊客が伸び悩んでいる点が、神戸市の大きな課題となっていま
す。

この点につきまして、会派では、「光の都」神戸というプロジェクトを立ち上げ取
り組んでいます。神戸の街を、もう一度、夜景の魅力にあふれた街、「光の都」とし
て分析し、提言を行っていかうというものです。

先日、様々な景観地、観光地を調査して回りました。何度か行っている場所も
「光の都」として行ってみると、改善できる点がたくさんあることに気がきました。
まずは、どこから観光客に夜景をみてもらうのか、どんな景色をみてもらうのか、
そこには、どのようにして夜、いけばよいか、もう一度考えてもらいたいと思いま

す。新神戸ロープウェイ、摩耶ケーブル共に、土日、真夏を除いて夜の営業はありません。海辺の夜景、メリケンパーク周辺も、どの駅からも遠く、夜に出かける場合は、タクシーとなります。市内たくさんの観光地も、夜の7時にはどうか、8時にはどうか、9時にはどうかと見ていって見ると、夜に観光できる場所は大変少なく、取り組みが必要だと感じます。昼間に景色のいい観光地の公園や花々で美しいフラワーロードでさえ、街灯は水銀灯の灯りが中心で夜の景色を考えたプロデュースは行われていないのではないかと思います。

ライトアップや夜景への取り組みは、最近、各都市が競って行っております。現在の、夜景の美しい街神戸のステイタスに満足することなく、10年後、20年後も輝き続けるため、「光の都」神戸の再プロデュースをやっていってはと思いますが、ご見解をお伺いします。

○中国人観光客の誘致について

また、この7月から、中国人向けビザの要件が緩和されるという報道がなされております。現在、年収300万円程度必要な要件が、大幅に緩和される可能性があります。これまでも、中国人観光客誘致については、様々な施策を実行してきているとは思いますが、今回の要件緩和によって、中国での中間層にあたる人々のさらなる日本への観光ツアーの大幅な増加が見込まれます。

南京町、舞子の孫文記念館だけでなく、まだまだ神戸には、たくさんの中国人

の方々を呼び寄せる観光資源、文化資源が眠っていると思います。ホームページやチラシなど、もう一度、中国向けのPRに力を入れることと共に、こうした資源を再発掘、磨きをかけることで中国人観光客の誘致を加速させる必要があると思いますが、取り組み状況をお伺いします。